

全国の学校・教育関係者の皆様へ

札幌日本大学中学校・高等学校

校長 浅利 剛之

全国の学校・教育関係者の皆様、こんにちは。長引くコロナ禍において、どの学校も感染防止と教育活動の両立に大変苦慮されていることと思います。そして難しい対応をせまられている状況は全国の学校で共通していると思います。お互い情報共有しながら、この未知のウィルスを克服して、子供・生徒たちのために教育活動を実践できることを心から期待しています。

さて、本高校では、全国的に中止になっているケースが多い学園祭（文化祭）を9月3、4日の両日に実施し、無事成功しましたのでそのご報告をいたします。本格的な学園祭は、本校が位置する札幌圏では現在のところ本校のみの実施だと聞いています。ただし、いつもと全く同様の学園祭は問題が多い上、世間や保護者、生徒の賛同も得られませんので、様々な工夫をして実施にこぎつけました。これらの経験をまとめて「札幌日大学園祭モデル」として公開しておりますので、今後学園祭を実施する学校の参考にさせていただければ幸いです。

なぜ多くの学校が学園祭を中止にする中実施に踏み切ったのか、その経緯をお話します。一つは生徒の意見です。学園祭の実施の可否を判断する際には最終学年の高校3年生にアンケートを実施いたしました。受験もある中、真意を知るためです。その結果は9月（本校学園祭は通常7月）であっても85%の生徒が学園祭を実施したいということでした。どんなに注意しても感染のリスクをゼロにはできないですし、受験のため中止でも良いと考える生徒もいる中迷いましたが、徹底した感染対策を講じた上でチャレンジしようと考えました。二つ目は、通常の学園祭をそのまま実施するのは難しいですが、社会で言われている感染予防を徹底させれば実施可能だと考えたからです。そして、工夫して対策を講じればやれることを示したかったこともあります。コロナ禍において一番我慢を強いられてきた生徒達に報いなければならないという思いと実施できるという確信の下で実施を決めました。

そして実際無事に終わった後の生徒の顔、反応をみると晴れやかで満足感があり、やはりやってよかったと心から思いました。よく世間では、高校生への慰めの言葉として、コロナがおさまってからやれなかったことを存分にやればよい、大学にいったから挽回すればよいと言っているのを聞きますが、生徒たちにとっては今の一瞬一瞬がかけがえのないものであり大事な時間です。我々大人が思っているよりずっと高校時代の時間は大事なものだと考えています。そんな中今回無事に実施できて、生徒の高校生活への責任を一つ果たした気持ちでほっとしています。また、成功にあたり生徒会の獅子奮迅の活躍、温かく見守っていただいた保護者の理解も欠かせませんでした。すべてがうまくいって大成功でした。

全国の学校・教育関係者の皆様、重ねて申し上げますが、「札幌日大学園祭モデル」を公開しておりますので、これから学園祭を予定している学校は参考にさせていただければ幸いです。長引くコロナ禍ですが、人類の長い歴史の中でこのような感染症の問題はたびたび起きてきたことです。私たちは今がその状況なのだを受け入れて生活することが肝要だと思います。そのときじっとして何もしなければ安全ではありますが、それで何もしない、チャレンジしないのがいい学校だとは思えません。多くの生徒が集まる学校で、何かをやろうとすれば批判を受けることもあります。それを承知の上でやっていくしかありません。状況を受け入れながら、前を向いて挑戦していくことが私は大事だと思います。現在の「なんでも自粛」の世論を変えて「感染対策を徹底して工夫すればできる。できるのだから対策を十分にとってやっていきましょう」というメッセージを学校・教育関係者の皆様には送りたいと思います。子供・生徒たちのために一緒に頑張っていきましょう。